

## 1. 第11回全国和牛能力共進会肉牛の部への取組

宇佐家畜保健衛生所

○長谷部恵理・山岡達也・榮徳千尋・木本裕嗣

### 【はじめに】

本年9月に開催された第11回全国和牛能力共進会（以下、第11回全共）においては、前回長崎大会以上の成績獲得を目標として、「奪冠」を合い言葉に関係機関一丸となって出品対策に取り組んできた。当家畜保健衛生所（以下、家保）の管轄する県北地域は、県内の肥育牛約6割が飼養される肥育地帯であることから、肉牛の部を重点的に出品対策に取り組んだのでその概要を報告する。

### 【取り組み内容】

県では、平成26年5月に第11回全国和牛能力共進会大分県推進協議会（以下、県推進協議会）を設立し、県出品牛造成基本方針に基づき、各区の交配種雄牛（第7区「平福安」、第8区「光星」、第9区「平福安」・「光星」）及び交配対象繁殖雌牛を決定。

家保は、振興局、市町、農協等からなる県推進協議会北部地区指導班（以下、地区指導班）を組織し、候補牛の生産、選抜、飼養管理指導等を組織的に推進。候補牛の生産には受精卵移植や性別別精液を活用するとともに、生産子牛の繁殖農家指導や、臨時市場後の肥育農家の飼養管理指導は地区指導班で実施。特に肥育では、定期巡回による体測や肉質超音波画像診断に加え、一般生化学検査や血中ビタミンA値の測定結果に基づくきめ細かな管理指導を実施。

### 【成 果】

管内から「光星」産子10頭（県下49頭）、「平福安」産子1頭（同39頭）の候補牛が平成28年3月の臨時市場に上場された（管内は自家肥育牛2頭を含む）。臨時市場後は管内11戸の肥育農家が39頭（光星産子22頭、平福安産子17頭）の肥育を開始した。このうち38頭が本年7月14日に開催された県最終予選会に出品され、その結果、第7区（総合評価群）で1戸1頭、第8区（若雄後代検定牛群）で1戸2頭が県代表牛に選抜された。宮城県での最終比較審査では、3頭ともに枝肉格付け成績はA5（BMSNo. 10）で全頭優等賞を獲得した。

### 【まとめ及び考察】

今回の全共は、県の目標とする「奪冠」は成らなかったが、総合成績で3位、全区で優等賞を獲得するなど前回以上の優秀な成績を収めることができた。今回の取組を次回鹿児島全共に活かすとともに、関係機関一体となって更なる「おおいた豊後牛」のブランド力向上に努めたい。